

バスケット語の文法概観*

乾 秀行

(山口大学)

inui@yamaguchi-u.ac.jp

0 はじめに

本稿は、エチオピアで話されている北オモ系言語のうち、西オメト諸語¹に属するとされるバスケット語 (Basketo) の文法を概観することを目的とする。ただし、調査は現在も進行中で、細部において十分検討できていない部分も残っており、本稿の文法記述はあくまで現時点での暫定的なものである。なお今回は、紙面の都合上、1. 音韻論、形態論の中の 2. 名詞、3. 代名詞、4. 数詞を取り上げる²。

インフォーマントによると、地名が Baskeeto、言語名が Baskeetitts である。バスケット語居住地域の中心地バスケットは、首都アジスアベバから約 500 キロあまり離れたサウラ (sawla) からさらに、車 (4WD) で約 2 時間 (距離にして約 40 キロ) のところにある。バスケット語が話されている主要な村は、ラスカ (laska)、ドンキ (donki)、ガルバヤ (garbaya)、ボーラ (boola)、ボッラ (bolla)、シャーラ (shaara)、ワダ (wadha)、ガワラ (gawala)、シェール (shel) などである。インフォーマントはラスカ村近郊のバルタ (balt'a) 村出身である³。

Grimes (2000) によれば、1998 年の人口調査で約 5 万 8 千人の母語話者がいると記載されているが、バルタ村で社会言語学的調査⁴をした限り

*本稿のデータは、2002 年 3 月、11 月、2003 年 11 月、2005 年 3 月に、エチオピア連邦民主共和国内のアルバミンチおよびバスケットでフィールド調査して収集したものである。インフォーマントには、バスケットの中心地ラスカ (laska) からさらに車で 40 分 (現地の人の足で歩いて 3 時間) のところにあるバルタ (balt'a) 村出身で、現在はアルバミンチで生計を立てている Fiqre Dejene 氏をお願いした。また、バルタ村で複数のインフォーマント (主に Taariku Oshenna 氏、Abbaba Subalew 氏、Amare Yilma 氏) にも本稿に載せた例文を確認してもらった。ここに感謝の意を表したい。なお本稿は、平成 13~16 年度科学研究費基盤研究 (B)(1)「多言語国家エチオピアにおける少数言語の記述、ならびに言語接触に関する調査研究」代表柘植洋一 (金沢大学)(課題番号 13571039) および平成 16~19 年度科学研究費基盤研究 (B)(1)「オモ・クシ系少数言語の調査研究及び地理情報システムを用いたデータベース構築」代表乾秀行 (山口大学)(課題番号 16401008) による研究成果の一部である。

では、バスケット語母語話者は年々増える傾向にある。しかし、近年の学校教育（初等教育は公用語アムハラ語で授業）の充実により、若年層を中心に多言語併用が進んでいる可能性が高い。

バスケット語に関する初期の先行研究としては、Cerulli (1938) がある⁵。しかし、全般的に断片的な記述が多く、十分な文法説明がされていなかったり、明らかに誤った文法解釈をしているところもある。そのため、本稿の記述とはかなりの食い違いをみせる。また、近年のバスケット語の文法の先行研究に Alemayehu A.(2002) がある。こちらでも数時間で行った調査⁶のため、多くの点で不十分な記述である。そこで、両論文について本稿の中で逐一言及することは、かえって議論が煩雑になると思われるので、必要に応じて注釈するにとどめることにする。

1 音韻論 (Phonology)

音素目録に関して、すでに乾 (2002) で論じているので、ここでは簡単な説明にとどめる⁷。

1.1 子音 (Consonant Phonemes)

バスケット語の子音は、全部で 29 である。() でくくったのは、出現頻度の低い音素である。以降は、表 1 の表記に従って記述する。ただし、語頭が母音で始まる単語の場合、その前に声門閉鎖音が現れることがあるが、単語自体の弁別機能として語頭の位置に常に声門閉鎖音が立つわけではなく、境界表示機能として使われている。したがって、本稿では語頭に声門閉鎖音が観察された場合も、境界表示機能として解釈し、声門閉鎖音を省いて記述している。

異音については、有声破裂音 /b/ が母音間で摩擦音 [β] になる。また、語頭の接近音 /j/ は、次に母音 /i/ が来ると、摩擦音化 ([j]) する。さらに、鼻音 /n/ は破裂子音が後続する場合、その調音位置に逆行同化する。本稿では、それぞれ /b/、/j/、/n/ のまま表記する。

1.2 母音 (Vowel Phonemes)

5 母音体系である。長短の違いについては、長母音をもつ単語が多くあり、また長短の区別を表す最小対語もいくつか見つかる。

無声閉鎖音&破擦音 (vl. Stops & Affricates)	(p)	t	ts	tʃ	k	ʔ
有声閉鎖音&破擦音 (vd. Stops & Affricate)	b	d	(dz)		g	
放出音 (Ejectives)	(p')		ts'	tʃ'	k'	
入破音 (Implosives)	ɓ	ɗ				
無声摩擦音 (vl. Fricatives)	ɸ	s	ʃ			h
有声摩擦音 (vd. Fricatives)		z	(ʒ)			f
鼻音 (Nasals)	m	n				
ふるえ音 (Trill)		r				
側面音 (Lateral)		l				
半母音 (Semivowels)	w			j		

表 1: バスケト語の子音目録

長母音をもつ単語

ma:ta 「草 ('grass')」

su:ts 「血 ('blood')」

to:ra 「槍 ('spear')」

i:t 「悪い ('bad')」

ge:ʃ 「朝 ('morning')」

最小対語

dona 「ジャガイモ ('potato')」 do:na 「口 ('mouth')」

buda 「灰 ('ashes')」 bur:da 「心臓 ('heart')」

i		u	i:	u:
e	o		e:	o:
	a			a:

表 2: バスケト語の母音目録

1.3 アクセント (Accent)

ピッチアクセント (pitch accent) であると思われる。単語によってアクセントの位置が固定しているのではなく、単語の意味の弁別に利用されている。しかし、今のところ最小対語がほとんど見つからないことから、弁別的に機能していない可能性がある⁸。

最小対語

buná 「コーヒー ('coffee')」 búna 「花 ('flower')」

2 名詞 (Nouns)

名詞に関して、性 (Gender)、数 (Number)、定性 (Definiteness)、格 (Case) について取り上げる。また関連して、後置詞 (Postpositions)、前動詞 (Preverbs) についてもあわせて言及する。

2.1 性 (Gender)

性の区別を表す接辞は、男性 (masculine) 名詞が /-a/、女性 (feminine) 名詞が /-in/ となる。ただし、性の区別は義務的なものではなく、あえて区別したいときにのみ用いられる。したがって特に表す必要がないときは、通常男性形で代表される。

有生名詞は、「生物種」としての男女の区別を持つ。一方、無生名詞は、「ものの大小」によって性の区別をする⁹。もっとも、すべての有生名詞が、「生物種」によって厳格に区別されているわけではない。たとえば、同じ動物名詞であっても、犬、馬、ロバ、羊、猫などのように、人間の生活に親近な動物は、「生物種」として区別されるけれども、ネズミ、象、猿、ハイエナなどのように、人間の生活にあまり関係のない動物の場合には、生物学的に雌雄の区別があっても、それを文法性として区別することは特にしない。

有生名詞

asa	「人、男 ('man')」
as-a(m.)	「人、男 ('man')」
as-in(f.)	「女 ('woman')」 ¹⁰
kana	「犬 ('dog')」
kan-a(m.)	「雄犬 ('male dog')」
kan-in(f.)	「雌犬 ('female dog')」
mola	「魚 ('fish')」
mol-a(m.)	「大きな魚 ('big fish')」
mol-in(f.)	「小さな魚 ('small fish')」

無生名詞

kalt	「斧 ('ax')」
kalt-a(m.)	「大きな斧 ('big ax')」
kalt-in(f.)	「小さな斧 ('small ax')」
arsa	「ベッド ('bed')」
ars-a(m.)	「大きなベッド ('big bed')」
ars-in(f.)	「小さなベッド ('small bed')」
mir:ts	「木 ('tree')」
mir:ts-a(m.)	「大きな木 ('big tree')」
mir:ts-in(f.)	「小さな木 ('small tree')」
ker:tsa	「家 ('house')」
ker:ts-a(m.)	「大きな家 ('big house')」
ker:ts-in(f.)	「小さな家 ('small house')」

次に、「生物種」と「ものの大小」の優先順位を確かめるため、有生名詞に大小を表す形容詞で修飾させてみる。その結果、「生物種」による区別の方が「ものの大小」による区別よりも優先されることがわかった。ただし、蚊、ハエ、アリのように、元々小さな生き物の場合には、男女の区別も、大小の区別もしない。たとえば、たまたま大きなアリについて言及する場合でも、形容詞betji「大きい ('big')」だけをつけて、名詞の側で文法性を区別することは特にしない。

大小を表す形容詞＋有生名詞

na?a	「子供 ('child')」
gilli na?-a(m.)	「小さな男の子 ('small boy')」
betji na?-in(f.)	「大きな女の子 ('big girl')」
kana	「犬 ('dog')」
gilli kan-a(m.)	「小さな雄犬 ('small male dog')」
betji kan-in(f.)	「大きな雌犬 ('big female dog')」
k'a:tj'	「アリ ('ant')」
betji k'a:tj'	「大きなアリ ('big ant')」

2.2 数 (Number)

単数 (singular) と複数 (plural) の区別は、一部の穀物などの不可算名詞を除いて、有生性に関係なく、すべての名詞に体系としてある。単数が無標の形で、複数標示が /-antsa/ となる¹¹。

有生名詞

(sg.)asa 「人、男 ('man')」
(pl.)as-antsa¹²

(sg.)matʃ 「女 ('woman')」
(pl.)matʃ'-antsa¹³

(sg.)ɸara 「馬 ('horse')」
(pl.)ɸar-antsa

(sg.)meh 「家畜 ('cattle')」
(pl.)meh-antsa

(sg.)mola 「魚 ('fish')」
(pl.)mol-antsa

(sg.)bi:nna 「蚊 ('mosquito')」
(pl.)bi:nn-antsa

無生名詞

(sg.)ke:tsa 「家 ('house')」
(pl.)ke:ts-antsa

不可算名詞

(sg./pl.)ga:fa 「テフ ('tef')」
(sg./pl.)buna 「コーヒー ('coffee')」¹⁴

ところで複数標示は、必ずしも義務的ではない。量を表す副詞 (例「たくさん」) や数詞がつく場合も、名詞の側で義務的に複数標示をする必要はない。それは、数詞よりも数が不確定な量を表す副詞の場合に、特に顕著である ((3) と (4)、(5) と (6))。また、有生性 (animacy) に関しては、人間名詞 > 動物名詞 (親近) > 動物名詞 (疎遠) > 無生名詞の順で、複数標示されやすい傾向がある。

- (1) fiadjzi ?kan-i/kan-antsts-i wode.
 three dog-SG/-PL-NOM be
 ‘3匹の犬がいる。’
- (2) wojlints as-i/as-ants-i wode.
 many man-SG/-PL-NOM be
 ‘たくさんの人がいる。’
- (3) fiadjzi bi:nn-a/bi:nn-ants kifil gididi wode.
 three mosquito-SG/-PL room in be
 ‘3匹の蚊が部屋にいる。’
- (4) fiardi akkababi wojlints bi:nn-a/?bi:nn-ants wode.
 this area many mosquito-SG/-PL be
 ‘この地域にはたくさんの蚊がいる。’
- (5) fiadjzi kerts-i/kerts-ants-i wode.
 three house-SG/-PL-NOM be
 ‘3軒の家がある。’
- (6) wojlints kerts-i/?kerts-ants-i wode.
 many house-SG/-PL-NOM be
 ‘たくさん家がある。’

2.3 定性 (Definiteness)

定 (definite) と不定 (indefinite) の区別は、性の区別と連動している。定と不定の区別が名詞全体に体系としてあり、定の名詞は、男性名詞に/-ada/、女性名詞に/-do/をそれぞれ接辞させることで作られる。結果として、男性名詞の定は/-a-ada/、女性名詞の定は/-in-do/という形態で、それぞれ実現される。なお、無生名詞は通常男性形であり、gilli「小さな(‘small’)」のような形容詞がつく場合のみ、女性形が使われる。また、主格形は男性名詞が/-a-ad-i/、女性名詞が/-in-d-a/になる¹⁵。

有生名詞

kana	「犬(‘dog’)」
kan-a-ada(m.)	「その雄犬(‘the male dog’)」
kan-in-do(f.)	「その雌犬(‘the female dog’)」
matʃ	「女(‘woman’)」
matʃ-in-do(f.)	「その女(‘the woman’)」

gentsa 「雄牛 ('ox')」
gents-a-ada(m.) 「その雄牛 ('the ox')」

mi:z 「雌牛 ('cow')」
mi:z-in-do(f.) 「その雌牛 ('the cow')」

kaφa 「鳥 ('bird')」
kaφ-a-ada(m.) 「その鳥 ('the bird')」

無生名詞

ɖala 「薬 ('medicine')」
ɖal-a-ada(m.) 「その薬 ('the medicine')」

dabdabba 「手紙 ('letter')」
dabdabb-a-ada(m.) 「その手紙 ('the letter')」

定と不定の区別に関する例文を以下に示す。(7)の「羊」は不定で、(8)の「羊」は定になる。

(7) ta:n-i zina:bo gab-apo dejf-i wong-ade.
1SG-NOM yesterday market-ABL sheep-INDEF-ACC buy-1SG.PF
‘私は昨日マーケットで羊を買った。’

(8) dejf-a-ad-i zina:bo k'am ɖaj-ide.
sheep-M-DEF-NOM last night escape-3SG.M.PF
‘その羊が昨晚逃げた。’

ところで、指示詞「この、その」がつくと、名詞の側で義務的に定を標示する必要がある¹⁶。

(9) fia: matsa:φ-a-ad-i zok'ats(e).
this book-M-DEF-NOM red
‘この本は、赤い。’

(10) sek mi:z-in-d-a karts(e).
that cow-F-DEF-NOM black
‘その雌牛は、黒い。’

(11) sek gents-a-ad-i karts(e).
that ox-M-DEF-NOM black
‘その雄牛は、黒い。’

2.4 格 (Case)

格は、主格、対格、与格、属格、奪格、具格、所格および呼格がある¹⁷。

2.4.1 主格 (Nominative)

主格標示は、通常男性名詞扱いで、/i/である。ただし主格名詞句が定の場合、/adi/が付加されるが、その定の接辞が省略されると、(13)のように、見かけ上/-a/で終わるように見える場合があるが、/a/自体は主格標示ではない。

- (12) kan-i baw-i edf-ide.
dog-NOM cat-ACC catch-3SG.M.PF
‘犬はネコを捕まえた。’

- (13) kana(-ad-i) bawa(-ad-ani) edf-ide.
dog(-DEF-NOM) cat(-DEF-ACC) catch-3SG.M.PF
‘その犬はその猫を捕まえた。’

ただし、女性名詞であることがはっきりしている場合は、主格標示が/-a/の形態で現れる。特に人名の場合、男性形と女性形の区別がはっきりしているので、形態の区別が明確である。語末母音の違いに関わらず、男性形は/i/のみしか許されないのに対して、女性形は/-a/が一般的であるが、/i/も稀に許される。以下は、男性のみに使われる名前 (Woc'ado, Wolqa, Dejene など) と、男女両方で使われる名前 (Fique, Woytano, Allifane など) と、女性のみに使われる名前 (Zammitane, Wotts'ano, Otire など) における主格標示の例、および例文である。

男性名	主格
wotf'ado 「Woc'ado」	→ wotf'ad-i, *wotf'ad-a
wolk'a 「Wolqa」	→ wolk'i, *wolk'-a
dezene 「Dejene」	→ dezen-i, *dezen-a

男女性両名	主格
φik're 「Fique」	→ φik'r-i, *φik'r-a (男性名) → φik'r-a, ?φik'r-i (女性名)
wojtano 「Woytano」	→ wojtan-i, *wojtan-a (男性名) → wojtan-a, ?wojtan-i (女性名)
alliφane 「Allifane」	→ alliφan-i, *alliφan-a (男性名) → alliφan-a, ?alliφan-i (女性名)

女性名	主格
zammitane 「Zammitane」	→ zammitan-a, ?zammitan-i, *zammitan-e
wotts'ano 「Wotts'ano」	→ wotts'an-a, ?wotts'an-i, *wotts'an-o
otire 「Otire」	→ otir-a, ?otir-i, *otir-e

- (14) $\phi ik'r-i$ $kan-i$ $wof-ide$.
 Fiqre-NOM dog-ACC kill-3SG.M.PF
 ‘フィクレ (男) は犬を殺した。’
- (15) $\phi ik'r-a$ $kan-i$ $wof-ade$.
 Fiqre-NOM dog-ACC kill-3SG.F.PF
 ‘フィクレ (女) は犬を殺した。’
- (16) $zammitan-a$ $ka\phi-i$ $edf-ade$.
 Zammitane-NOM bird-ACC catch-3SG.F.PF
 ‘ザンミタネ (女) は鳥を捕まえた。’

2.4.2 対格 (Accusative)

対格標示は、母音 (/a/あるいは/o/) で終わる名詞の場合、母音が /i/ に変わる ((17)~(21))。一方、子音で終わる名詞の場合には、そのまま何もつけないのが一般的であるが、/i/をつけることも許容される ((22)~(24))。また、子音で終わる名詞からの類推で、母音で終わる名詞にも (20) のように、稀に /i/ が省略されることがあるが、許容度は低い。

- (17) $\phi ik'r-i$ $dajits-i$ $muj-ide$. (dajitsa 「朝食 ('breakfast')」)
 Fiqre-NOM breakfast-ACC eat-3SG.M.PF
 ‘フィクレは朝食を食べた。’
- (18) $\phi ik'r-i$ $to:r-i$ $dorb-ide$. (to:ra 「槍 ('spear')」)
 Fiqre-NOM spear-ACC throw-3SG.M.PF
 ‘フィクレは槍を投げた。’
- (19) $\phi ik'ri$ $ma:h-i$ $bekk'-ine$. (ma:ha 「ヒョウ ('leopard')」)
 Fiqre-NOM leopard-ACC see-3SG.M.PF
 ‘フィクレはヒョウを見た。’
- (20) $\phi ik'r-i$ $godars-i$? $godars$ $wof-ide$. (godarsa 「ハイエナ ('hyena')」)
 Fiqre-NOM hyena-ACC kill-3SG.M.PF
 ‘フィクレはハイエナを殺した。’

(21) ϕ ik'r-i ind-i bekk'-ine. (indo 「母 ('mother')」)
Fiqre-NOM mother-ACC see-3SG.M.PF
‘フィクレは母を見た。’

(22) ϕ ik'r-i miz(-i) bukk-ide. (miz 「雌牛 ('cow')」)
Fiqre-NOM cow-ACC hit-3SG.M.PF
‘フィクレは雌牛をたたいた。’

(23) zammitan-a wutsil(-i) edd-ade. (wutsil 「ハエ ('fly')」)
zammitane-NOM fly-ACC catch-3SG.F.PF
‘ザンミタネはハエを捕まえた。’

(24) ϕ ik'r-i wats(-i) ufk-ine. (wats 「水 ('water')」)
Fiqre-NOM water-ACC drink-3SG.M.PF
‘フィクレは水を飲んだ。’

一方、対格名詞句が定の時は、*/-ad-ani/*（あるいは語末母音*/i/*の落ちた*/-ad-an/*）という形になる。定の接辞が省略されると、(26)のように、稀に見かけ上*/-a/*で終わることがあるけれども、*/-a/*自体は対格標示ではない。

(25) ϕ ik'r-i polis-i bukk-ide.
Fiqre-NOM police-ACC hit-3SG.M.PF
‘フィクレは警官をなぐった。’

(26) ϕ ik'r-i polisa(-ad-ani/-ad-an) bukk-ide.
Fiqre-NOM police(-DEF-ACC) hit-3SG.M.PF
‘フィクレはその警官をなぐった。’

(27) ϕ ik'r-i torra-ad-ani dorb-ide.
Fiqre-NOM spear-DEF-ACC throw-3SG.M.PF
‘フィクレはその槍を投げた。’

ところでこの*/-ad-ani/*から定の部分*/-ad/*を取り除くと対格標示*/-ani/*が抽出される。そこで、*/-ani/*の機能を確かめるために、対格標示*/-i/*と対比させた例文を挙げてみると、(30)のように、定*/-ad/*のつかない*/-ani/*単独の形態は、あまり許容されることがわかる。

(28) zammitan-a dabdabb-i nabbab-ine.
Zammitane-NOM letter-ACC read-3SG.F.PF
‘ザンミタネは手紙を読んだ。’

(29) zammitan-a dabdabba-ad-ani nabbab-ine.
Zammitane-NOM letter-DEF-ACC read-3SG.F.PF
‘ザンミタネはその手紙を読んだ。’

(30) ?zammitan-a dabdabb-ani nabbab-ine.
Zammitane-NOM letter-ACC read-3SG.F.PF
‘ザンミタネはその手紙を読んだ。’

そこで、対格名詞句が定か不定かで、どちらの対格標示 (/i/か/-ani/) が選択されるかをさらに詳細に検証してみる。

対格が定の場合

(31) kana-ad-i bawa-ad-ani/*bawa-ad-i edf-ide.
dog-DEF-NOM cat-DEF-ACC catch-3SG.M.PF
‘その犬がその猫を捕まえた。’

(32) φik'r-i bawa-ad-ani/*bawa-ad-i edf-ide.
Fique-NOM cat-DEF-ACC catch-3SG.M.PF
‘フィクレがその猫を捕まえた。’

(31)、(32) より、対格名詞句が定/-ad/の場合、対格標示は/i/では認められず、/-ani/でなければならない。また対格名詞句を固有名詞にしてみると、(33) のようになる。

(33) φik'r-i meskerem-ani/?meskerem-i ekk-ine.
Fique-NOM Meskerem-ACC marry-3SG.M.PF
‘フィクレはメスケレムと結婚している’

ekhire 「結婚する ('marry')」 という動詞は、男性が結婚するときのみ使える動詞で、日本語で言えば、「娶る」という意味で、対格を取る他動詞である。つまり/-ani/は対格標示であり、この場合、/i/よりも/-ani/の方が自然である。固有名詞は元々定なので、/-ani/が選択されるといえる。

対格が不定の場合

対格名詞句が不定の場合、今度は対格標示/i/の方が基本で、逆に/-ani/の方がかなり不自然となる ((34)~(36))。

(34) φik'r-i baw-i/?baw-ani edf-ide.
Fique-NOM cat-ACC catch-3SG.M.PF
‘フィクレは猫を捕まえた。’

(35) kana-ad-i baw-i/?baw-ani edf-ide.
dog-DEF-NOM cat-ACC catch-3SG.M.PF
‘その犬は猫を捕まえた。’

(36) kan-i baw-i/?baw-ani edf-ide.
dog-NOM cat-ACC catch-3SG.M.PF
‘犬は猫を捕まえた。’

そこでその点をはっきりさせるため、バスケット語の基本語順 (SOV) の解釈では非文になる例を挙げて、さらに検証してみる。

(37) φik'r-i bawa-adi edf-ide.
Fique-ACC cat-NOM catch-3SG.M.PF
‘猫がフィクレを捕まえた。(OSV)’

(37) の文は通常の SOV の解釈では非文であるが、インフォーマントによれば、OSV として再解釈すると可能となる。つまり bawa-adi の方が主格名詞句で、φik'r-i の方が対格名詞句となる。

以上より、現時点の結論としては、/-ani/は定につく対格標示で、/-i/は不定につく対格標示である。なお、不定の場合は、主格も対格も/-i/になり、語順や文脈によって判断しなければならないが、定の場合には、対格標示が/-ani/となるので、その多義性が回避される。

ところで、主格の/-i/と対格の/-i/を比較した場合、主格の/-i/の方は絶対に省略することはできない。(39)のように、かりに主格の/-i/が削除された場合、SOV のままで解釈しようとするむずかしいけれども、OSV としてなら適格文として解釈されることになる。

(38) kan-i baw(-i) edf-ide.(SOV)
dog-NOM cat-ACC catch-3SG.M.PF
‘犬が猫を捕まえた。’

(39) kan baw-i edf-ide. (OSV)
dog-ACC cat-NOM catch-3SG.M.PF
‘猫が犬を捕まえた。’

最後に対格標示の異形態について言及する。まず、不定の対格標示/-i/の場合、上述したように、たまに省略されることがある。しかし、/-a/や/-o/という形態は文法的に間違いである。ただし、稀に定の/-d-ani/が省略された場合、見かけ上/-a/で終わるように見えるが/-a/は対格標示ではない。その場合も、(41)のような OSV の語順は認められない。

(40) ϕ ik'r-i kan/-i/-a(-ad-ani)/*-o edf-ide.
 Fiqr-NOM dog-ACC catch-3SG.M.PF
 ‘フィクレは犬を捕まえた。’

(41) *kana ϕ ik'r-i edf-ide.(OSV)
 dog(-ACC) Fiqr-NOM catch-3SG.M.PF
 ‘その犬をフィクレが捕まえた。’

一方、定の対格標示/-ani/の場合、(42)のように、/-ana/あるいは/-ano/という形で現れることもある。同様に(43)のように、/-ani/および語末母音/i/の落ちた/-an/、さらに/-ana/なども認められる。ただし、/-ano/は認められない。

(42) ϕ ik'r-i meskerem-ani/-an/-ana/?-ano ekk-ine.
 Fiqr-NOM Meskerem-ACC marry-3SG.M.PF
 ‘フィクレはメスケレムと結婚している。’

(43) ϕ ik'r-i to:ra-ad-ani/-an/-ana/*-ano dorb-ide.
 Fiqr-NOM spear-DEF-ACC throw-3SG.M.PF
 ‘フィクレはその槍を投げた。’

2.4.3 与格 (Dative)

与格標示は/-abo/である。以下に例文を示す。

(44) ϕ ik'r-i meskerem-abo bun-i emm-ide.
 Fiqr-NOM Meskerem-DAT flower-ACC give-3SG.M.PF
 ‘フィクレはメスケレムに花を与えた。’

(45) ϕ ik'r-i meskerem-abo dabdabb-i mif-ide.
 Fiqr-NOM Meskerem-DAT letter-ACC send-3SG.M.PF
 ‘フィクレはメスケレムに手紙を送った。’

tamarisire「教える(‘teach’)」の受益者も与格/-abo/を取る。しかし与格以外に、対格標示/-ani/を取ることもできる。両者の意味の違いは、インフォーマントによると、与格を取る方が、受益者の意味合いがより強く出るのに対して、対格を取る方は、動作主(主格)から一方的に「教える」行為がされている場合である。もちろん不定の対格標示/-i/も取ることができるが、こちらの方は(50)のように許容度が落ちる。理由は、動作主、受益者、対象の格標示がすべて/-i/になり、多義的になってしまうからである。その結果不定の場合、受益者は与格が好まれる。

- (46) astamara-ad-i tamar-abo hisab tamaris-ire.
 teacher-DEF-NOM student-DAT math-ACC teach-3SG.M.IMPF
 ‘その先生は学生に数学を教える。’
- (47) astamara-ad-i tamar-ad-ani hisab tamaris-ire.
 teacher-DEF-NOM student-DEF-ACC math-ACC teach-3SG.M.IMPF
 ‘その先生はその学生に数学を教える。’
- (48) astamara-ad-i tamar-i hisab tamaris-ire.
 teacher-DEF-NOM student-ACC math-ACC teach-3SG.M.IMPF
 ‘その先生は学生に数学を教える。’
- (49) astamar-i tamar-abo k'onk'-i tamaris-ire.
 teacher-NOM student-DAT language-ACC teach-3SG.M.IMPF
 ‘先生は学生に言語を教える。’
- (50) ?astamar-i tamar-i k'onk'-i tamaris-ire.
 teacher-NOM student-ACC language-ACC teach-3SG.M.IMPF
 ‘先生は学生に言語を教える。’

もちろん、与格の/-abo/と/-ani/が常に交換可能なわけではなく、(51)、(52)のように、たとえば emmire 「与える ('give')」の受益者は、与格/-abo/しか許されない。

- (51) nu:n-i tʃ'ingaf matʃ'-abo/*matʃ'-ad-ani ajf emm-ide.
 1PL-NOM old woman-DAT meat-ACC give-1PL.PF
 ‘私たちは年老いた婦人に肉を与えた。’
- (52) naʔa-ad-i gents-abo/*gents-ad-ani mos emm-ide.
 child-DEF-NOM ox-DAT sorgham-ACC give-3SG.M.PF
 ‘その子供は雄牛にソルガムを与えた。’

2.4.4 属格 (Genitive)

属格名詞句は被修飾名詞に先行する。属格標示は/-i/となり、被修飾名詞が母音で終わる場合 ((53)~(57)) は、その語末母音が削除され、一方子音で終わる場合 ((58)~(59)) は、そのまま変化しない。なお、属格/-i/に関しては、性による違いはなく、女性形も同じである ((56)~(57))。形容詞文の主題に現れるとき ((61)、(63)~(64))、被修飾名詞の語末母音は長くなる。また (61)~(62) の「犬の尻尾」の場合、属格名詞句の「犬の」の部分が/kan-a/になるが、今のところ理由は不明である。

- (53) $\phi ik'r-i$ kerts ($\phi ik'r-e$, kertsɑ)
 Fiqre-GEN house
 ‘フィクレの家’
- (54) meskerem-i kerts (meskerem, kertsɑ)
 Meskerem-GEN house
 ‘メスケレムの家’
- (55) kan-i gols (kana, golsɑ)
 dog-GEN tail
 ‘犬の尻尾’
- (56) ind-i ojd (indo, ojda)
 mother-GEN chair
 ‘母の椅子’
- (57) mij-i bun (mifa, buna)
 sister-GEN flower
 ‘妹の花’
- (58) astamar-i matsa: ϕ (astamara, matsa: ϕ)
 teacher-GEN book
 ‘先生の本’
- (59) ba:b-i ka:mol (ba:ba, ka:mol)
 father-GEN car
 ‘父の車’
- (60) ta:n-i kan-i gols jed ϕ -ade.
 1SG-NOM dog-GEN tail-ACC put-1SG.PF
 ‘私は犬の尻尾を踏んだ。’
- (61) kan-a/?kan-i gols-a: \bar{a} rints(e).
 dog-GEN tail long
 ‘犬の尻尾は長い。’
- (62) kan-a gols-ad-i/*gols-ad-a \bar{a} rints(e).
 dog-GEN tail-DEF-NOM long
 ‘犬の尻尾は長い。’

(63) ϕ ik'r-i kerts-a: betf(e).
Fiqre-GEN house big
'フィクレの家は大きい。'

(64) ba:b-i ka:mol-a: oratts(e).
father-GEN car new
'父の車は新しい。'

2.4.5 奪格 (Ablative)

奪格標示は/-apo/である。以下に例文を示す。

(65) ϕ ik'r-i balt'-apo jej-ine.
Fiqre-NOM balt'a-ABL come-3SG.M.PF
'フィクレはバルタ (村) から来た。'

(66) hid-i zapan-apo jej-ine.
Hide-NOM Japan-ABL come-3SG.M.PF
'ヒデは日本から来た。'

(67) meskerem-a kerts-apo kesk-ine.
Meskerem-NOM house-ABL go out-3SG.F.PF
'メスケレムは家から出た。'

(68) fiajd-apo arbamintf' jelts wozar ϕ eni gottir-a?
here-ABL ArbaMinch to how far exist-INTRO
'ここからアルバミンチまでどのくらい (距離) ありますか?'

(69) nu:n-i t'ingaf matf' gall-apo ajf ekk-ide.
1PL-NOM old woman on-ABL meat-ACC take-1PL.PF
'私たちは年老いた婦人のところから肉を取った。'

2.4.6 具格 (Instrumental)

具格標示は/-bara/である。以下に例文を示す。

(70) ϕ ik'r-i ka:mol-bara arbamintf' lukk-ine.
Fiqre-NOM car-INSTR ArbaMinch go-3SG.M.PF
'フィクレは車でアルバミンチに行った。'

- (71) $\phi ik'r-i$ $pe-ba:b-ani$ $gu\phi i-bara$ $bukk-ide$.
 Fiqr-NOM REF-father-ACC stick-INSTR hit-3SG.M.PF
 ‘フィクレは彼の父を棒でたたいた。’
- (72) $ta:n-i$ $bun-i$ $ma:tsi-bara$ $ufk-are$.
 1SG-NOM coffee-ACC milk-INSTR drink-1SG.IMPF
 ‘私はミルク入りコーヒーを飲む。’
- (73) $ta:n-i$ $ja-i$ $lo:ma-bara$ $ufk-andabo$ $koy-are$.
 1SG-NOM tea-ACC lemon-INSTR drink-INF want-1SG.IMPF
 ‘私はレモン入り紅茶が飲みたい。’
- (74) $\phi ik'r-i$ $baske:to$ $baske:titts-bara$ $so:lint-ire$.
 Fiqr-NOM Basketo Basketo-INSTR speak-3SG.M.IMPF
 ‘フィクレはバスケットでは、バスケット語で話す。’
- (75) $\phi ik'r-i$ $arbamintʃ$ $amaritts-bara$ $so:lint-ire$.
 Fiqr-NOM ArbaMinch Amharic-INSTR speak-3SG.M.IMPF
 ‘フィクレはアルバミンチでは、アムハラ語で話す。’

時間を表す場合にも具格/*-bara/*が使われる。

- (76) $ta:n-i$ $\phi etti$ $saʔat-bara$ $dend-ade$.
 1SG-NOM one hour-INSTR get up-1SG.PF
 ‘私は1時(エチオピア時間)に起きた。’

2.4.7 所格 (Locative)

所格を表す接辞はいくつか考えられる。ただし、語としての独立性の高いものは、後置詞として捉えた方がいい。所格の場合、格と後置詞の境界線がはっきりしないので、ある特定の形態だけを取りだして、所格として認定するのはむずかしい。

/-it/ 「～に」

地名につく接辞である。接辞した形態しかないなので、所格として捉えられる。

- (77) $Hailand$ $arbamintʃ-it$ $orts-int-ire$.
 Highland ArbaMinch-LOC make-PASS-IMP
 ‘ハイランド¹⁸はアルバミンチで作られている。’

- (78) wojlints buna basket:it o:ts-int-ire.
 many coffee Basketo-LOC make-PASS-IMPF
 ‘たくさんのコーヒーがバスケットで作られている。’

ただし、地名でも (79) ような場合は、何もつけない。

- (79) wojlints wor3-i basket wode.
 many people-NOM Basketo be
 ‘たくさんの人がバスケットにいる。’

/galla/ (/ -alla/) 「～の上に、～に、～で」

「～の上に」が基本の意味である。前の語に融合すると/g/が落ちるので、/-alla/を所格として捉えることができるかもしれない。しかし、現時点では (81) のような「道で」以外に/-alla/の例を見つけることができない。なお、物が存在する場合 (80) も、事柄が起こる場合 (82) も、関係なく使える。また、方向性に関して、「上に」と「上へ」の違いはない ((83))。

- (80) arsa galla/*-alla ϕ etti k'ul ϕ wode.
 bed on one key be
 ‘ベッドの上に一つの鍵がある。’
- (81) ϕ ik'r-i meskerem-ani goits-alla/galla jell-ide.
 Fiqre-NOM Meskerem-ACC road-LOC/at meet-3SG.M.PF
 ‘フィクレはメスケレムに道で会った。’
- (82) ko:s me:di galla attabo betfi toh ko:s-i ka:s wode.
 stadium in today big football-GEN game be
 ‘スタジアムで今日大きなサッカーの試合がある。’
- (83) ta:n-i kopp-i tsarapp'e:za galla/*-alla gadd-ade.
 1SG-NOM cup-ACC desk onto put-1SG.PF
 ‘私はコップを机の上へのせた。’

/giddi/ (/ -itti/) 「～の中に」

/galla/の場合と同様、前の語に融合すると/g/が落ちる。ただし接辞化される形態の方は、さらに子音が無声化 (d > t) する。/-itti/の方は、所格として捉えることが可能である。

- (84) ϕ ik'r-i pe-ts'armus-itti/?giddi wats-i mif-ide.
 Fiqre-NOM REF-bottle-LOC/into water-ACC put-3SG.M.PF
 ‘フィクレは自分の瓶の中に水を入れた。’

なお、以下の(85)~(87)は/giddi/あるいは/-itti/の省略が可能である。
また、(88)~(89)の場合には、どちらもつけることができない。

(85) ϕ ik'r-i kiful (giddi) lukki-ide.
Fiqre-NOM room (into) go-3SG.M.PF
'フィクレは部屋の中に行った。'

(86) ϕ ik'r-i kiful(-itti) lukk-ide.
Fiqre-NOM room(-LOC) go-3SG.M.PF
'フィクレは部屋の中に行った。'

(87) ϕ ik'r-i kiful(-itti) gel-ide.
Fiqre-NOM room(-LOC) enter-3SG.M.PF
'フィクレは部屋に入った。'

(88) ϕ ik'r-i timirtal lukk-ide.
Fiqre-NOM school go-3SG.M.PF
'フィクレは学校に行った。'

(89) ϕ ik'r-i timirtal wots'-ine.
Fiqre-NOM school run-3SG.M.PF
'フィクレは学校に走った。'

2.4.8 呼格 (Vocative)

呼格は、語末母音を/-o/にすることで作られる。ただし、元々/-o/で終わる名詞の場合は、そのままの形で呼格になる。

if-o! 「兄弟！」	(ifi 「兄弟 ('brother')」)
ababb-o! 「親父！」	(ababa 「父 ('father')」)
ind-o! 「母さん！」	(indo 「母 ('mother')」) ¹⁹
naʔ-o! 「少年！」	(naʔa 「少年 ('boy')」)
naʔ-e! 「少女！」 ²⁰	(naʔe 「少女 ('girl')」)
as-o! 「男！」	(asa 「男 ('man')」)
matʃ'-o! /matʃ'ants-o! 「女たち！」 ²¹	(matʃ' /matʃ'antsa 「女 ('woman')」)
kan-o! 「犬！」	(kana 「犬 ('dog')」)
baw-o! 「猫！」	(bawa 「猫 ('cat')」)
ϕ ar-o! 「馬！」	(ϕ ara 「馬 ('horse')」)
ϕ ik'r-o! 「フィクレ！」	(ϕ ik're 「男性名」)
meskerem-o! 「メスケレム！」	(meskerem 「女性名」)

2.5 後置詞 (Postpositions)

ここでは、語としての独立性が強い後置詞をいくつか取り上げる。

2.5.1 /gif/ 「～ために、～について」

基本の意味は「～ために」である。

- (90) ta:n-i fik'r-i gif gabi lukk-ade.
1SG-NOM Fiqre-GEN for market go-1SG.PF
‘私はフィクレのためにマーケットに行った。’

/gif/は、与格/-abo/と交替可能な場合がある。/gif/が選択されるのか、それとも与格 (/abo/) が選択されるのかは、動詞によって異なる。

- (91) nu:n-i basketitts gif/*-abo k'opp-and koj-ire.
1PL-NOM basketo language about think-INF must-1PL.IMPF
‘我々はバスケット語について考えなければならない。’

- (92) nu:n-i basketitts gif/?-abo so:lint-and koj-ire.
1PL-NOM Basketo-DAT speak-INF must-1PL.IMPF
‘我々はバスケット語について話さなければならない。’

- (93) nu:n-i i k'oφ-abo somamma?-and koj-ire.
1PL-NOM 3SG.M.POSS opinion-DAT agree-INF must-1PL.IMPF
‘我々は彼の意見に同意しなければならない。’

- (94) nu:n-i i k'oφa gif somamma?-and koj-ire.
1PL-NOM 3SG.M.POSS opinion for agree-INF must-1PL.IMPF
‘我々は彼の意見に同意しなければならない。’

2.5.2 /jelts/(/dras/) 「～まで」

バスケット語本来の語彙は/jelts/である。しかし、実際には、アムハラ語からの借用語/dras/を代用することの方が多。ただし、年配者は/jelts/を使う傾向がある。

距離を表す場合

- (95) fajd-apo arbamintj' jelts/dras wozar φeni gottir-a?
here-ABL ArbaMinch to how far exist-INTRO
‘ここからアルバミンチまでどのくらい（距離）ありますか?’

期間を表す場合

期日が特定の日 (96) ではなく、「1 年先 (97)」、「3 ヶ月先 (98)」、「1 週間先 (99)」のような期間を表す場合は、attaBo「今日 ('today)」を基準にして表現する。

(96) ta:n-i giabo jelts/dras a:los o:ts-are.
1SG-NOM tomorrow by homework-ACC do-1SG.IMPF
‘私は明日までに宿題をする。’

(97) ta:n-i attabo laits jelts/dras ta kertsí kerts'-are.
1SG-NOM today year by 1SG.POSS house-ACC build-1SG.IMPF
‘私は私の家を来年までに建てる。’

(98) ta:n-i attabo fajdzi agani jelts/dras ta kertsí kerts'-are.
1SG-NOM today three month by 1SG.POSS house-ACC build-1SG.IMPF
‘私は3 ヶ月先までに私の家を建てる。’

(99) ta:n-i attabo ϕ etti sa:mint jelts/dras hotel-itti do?-are.
1SG-NOM today one week by hotel-LOC stay-1SG.IMPF
‘私は1 週間ホテルに滞在する。’

2.5.3 /ti:n/「～前」、/gas/ (/unk/, /zula/)「～後」

「前」は/ti:n/である。/ti:nagal/という異形態もある。述語的に使うと語尾に/-e/がつくが、その場合はコピュラ (wode) をつけることができない。

(100) ta:n-i fiatti swajnes hotel ti:n/ti:nagal wode.
1SG-NOM now Swaynes Hotel front be
‘私は今スワイネスホテルの前である。’

(101) ta:n-i fiatti Swajnes hotel ti:ne.
1SG-NOM now Swaynes Hotel front
‘私は今スワイネスホテルの前である。’

「後」は/gas/、/unk/、/zula/である。/gas/が一般的な「後」の意味であるのに対して、/unk/および/zula/は、人間や動物の「背中」の意味から派生した。述語的に使うと語尾に/-e/がつく。/ti:n/同様、その場合はコピュラ (wode) をつけることができない。また、/gasagal/、/unkagal/という異形態もあるが、あまり使われない。

- (102) ta:n-i fiatti posta:l gase/unke/zule.
 1SG-NOM now PostOffice back
 ‘私は今郵便局の後である。’
- (103) ta:n-i fiatti posta:l gas/unk/zuli wode.
 1SG-NOM now PostOffice back be
 ‘私は今郵便局の後ろである。’
- (104) u:φ gas wode.
 injera back be
 ‘インジェラは後にある。’
- (105) u:φ zuli wode.
 injera back be
 ‘インジェラは後にある。’

2.5.4 その他の後置詞

以下、後置詞/ts'ana/「～の下に」、/laφ/「～近くに」、/baidon/「～なし」、/bes/「～代わりに」、/φe:ni/「～ように」の例文を列挙する。

/ts'ana/「～の下に」

- (106) arsa ts'ana matsa:φ wode.
 bed under book be
 ‘ベッドの下に本がある。’

/laφ/「～近くに」

- (107) arsa laφ ojda wode.
 bed near chair be
 ‘ベッドの近くに椅子がある。’

/baidon/「～なし」

- (108) ta:n-i bun-i ma:tsi-baidon ufk-andabo koj-are.
 1SG-NOM coffee-ACC milk-without drink-INF want-1SG.IMPF
 ‘私はミルクなしコーヒーが飲みたい。’
- (109) ta:n-i ja-i sukka:r-baidon ufk-andabo koj-are.
 1SG-NOM tea-ACC sugar-without drink-INF want-1SG.IMPF
 ‘私は砂糖なし紅茶が飲みたい。’

/bes/ 「～代わりに」

- (110) $\phi ik'r-i$ ta-bes hosp'ital lukk-ide.
Fique-NOM 1SG.POSS-instead hospital go-3SG.M.PF
‘フィクレは私の代わりに病院に行った。’

/ $\phi e:ni$ / 「～ように」

- (111) ta:n-i jeri $\phi e:ni$ jeddf-are.
1SG-NOM donkey like walk-1SG.IMPF
‘私はロバのように歩く。’

- (112) ta:n-i gents $\phi e:ni$ orfs-are.
1SG-NOM ox like work-1SG.IMPF
‘私は牛のように働く。’

2.6 前動詞 (Preverbs)

「上る」や「下る」など移動を表す場合に、「上に行く」「下に行く」という表現を使う。本稿では、これらのタイプを前動詞 (Preverb) として扱うことにする。以下は、それぞれ/ ϕudi /「上に」、/ $to:ri$ /「下に」、/ $gedi$ /「あっちに」、/ $ufatj$ /「右に」、/ $fiadirs$ /「左に」の例文である。

- (113) ta:n-i zina:bo ϕudi lukk-ine.
1SG-NOM yesterday upward go-1SG.PF
‘私は昨日上に行った。’
- (114) ta:n-i zina:bo $to:ri$ lukk-ine.
1SG-NOM yesterday downward go-1SG.PF
‘私は昨日下午に行った。’
- (115) ta:n-i zina:bo $gedi$ lukk-ine.
1SG-NOM yesterday there go-1SG.PF
‘私は昨日あっちに行った。’
- (116) ij-i zina:bo $ufatj$ lukk-ine.
3SG.M-NOM yesterday right go-3SG.M.PF
‘彼は昨日右に行った。’
- (117) ij-i zina:bo $fiadirs$ lukk-ine.
3SG.M-NOM yesterday left go-3SG.M.PF
‘彼は昨日左に行った。’

なお、場所をはっきり特定できない場合は、後ろに/jizi/「～方に」をつける。短縮形は/-zi/であるが、しかし「左」、「右」に関しては、短縮形はない((119)～(120))。

φudi jizi/φudi-zi 「上の方に」
 to:ri jizi/to:ri-zi 「下の方に」
 gedi jizi/gedi-zi 「あっちの方に」

(118) kaφ-i φudi jizi/-zi φar-ine.
 bird-NOM upward toward fly-3SG.M.PF
 ‘鳥は上の方に飛んだ。’

(119) ij-i zina:bo ufatj jizi lukk-ine.(*ufatj-zi)
 3SG.M-NOM yesterday right toward go-3SG.M.PF
 ‘彼は昨日右の方に行った。’

(120) ij-i zina:bo fiadirs jizi lukk-ine.(*fiadirsi-zi)
 3SG.M-NOM yesterday left toward go-3SG.M.PF
 ‘彼は昨日左の方に行った。’

3 代名詞 (Pronouns)

3.1 指示代名詞 (Demonstrative Pronouns)

指示代名詞は指示詞「この、その」に定の接辞/-ad/をつけることで作られる。定に関しては、名詞同様、「生物種」および「ものの大小」によって文法性の区別をする²²。主格形で表すと、男性形が/-ad-i/、女性形が/(n)n-a/になる。

指示詞

単数 (SG)	複数 (PL)
fia:/fij 「この ('this')」	fia-ntsa/fij-ontsa 「これらの ('these')」
sek 「その ('that')」	sek-ontsa 「それらの ('those')」

指示代名詞 (主格形)

男性形 (M)	女性形 (F)
fia-ad-i/fij-ad-i 「これが」	fia-nn-a/fiji-nn-a 「これが [♂] 」
sekka-ad-i 「それが」	sekka-n-a/sekki-n-a 「それが [♂] 」

指示代名詞の具体的な例を (121)～(124) にあげる。

(121) *fi*a-ad-i *zok'ats matsa:φ*(e).
this-M-NOM red book
'これは、赤い本です。'

(122) *sekka*-ad-i *karts gents*(e).
that-M-NOM black ox
'それは、黒い雄牛です。'

(123) *sekka*-n-a *karts mi:z*(e).
that-F-NOM black cow
'それは、黒い雌牛です。'

(124) *sekka*-ad-i *betʃi ars*(e).
that-M-NOM big bed
'それは、大きなベッドです。'

また、名詞を修飾する場合、名詞の側で文法性を表すと、(125)~(127)のように、指示詞の文法性の標示は省略可能となる。

(125) *sekk*(a-n-a) *kan-inda zok'ats*(e).
that(-F) dog-F red
'その子犬は、赤い。'

(126) *sekk*(a-n-a) *ars-inda gill*(e).
that(-F) bed-F small
'そのベッドは、小さい。'

(127) *fi*a(-nn-a) *ars-inda gill*(e).
this(-F) bed-F small
'このベッドは、小さい。'

一方複数になると、(128)~(129)のように、指示代名詞自体の定の標示がなくなるだけでなく、名詞の側でも定を標示する必要がなくなる。複数名詞は定の標示がない方が一般的である²³。

(128) *fi*a-jonts-i *zok'atsi matsa:φ-ants* (wode).
this-PL-NOM red book-PL (be)
'これらは、赤い本です。'

(129) *sekk*-ants-i *kartsi mi:z-ants* (wode).
that-PL-NOM black cow-PL (be)
'それらは、黒い雌牛です。'

ところで、無生名詞の場合、「ものの大小」に関して、特に小さくないものを指す場合、通常男性形が使われる。指示代名詞を女性形にすると、単に小さいことを表し、名詞まで女性形にするとさらに小さいことを意味する。逆に、特に大きいものを指す場合、指示代名詞だけでなく名詞の側にも男性形/*-ada/*をつけることになる。以下に例を示す。

- (130) *fi-a-d-i* *mi:ts.*
this-M-NOM tree
‘これは木です。’ (普通の木)
- (131) *fi-a-nn-a* *mi:ts.*
this-F-NOM tree
‘これは木です。’ (小さい木)
- (132) *fi-a-nn-a* *mi:ts-in-do.*
this-F-NOM tree-F-DEF
‘これは木です。’ (特に小さい木)
- (133) *fi-a-d-i* *mi:ts-a-ada.*
this-M-NOM tree-M-DEF
‘これは木です。’ (特に大きい木)
- (134) *sekka-a-d-i* *arsa.*
that-M-NOM bed
‘それはベッドです。’ (普通のベッド)
- (135) *sekka-a-d-i* *fetʃi ars-a-ada.*
that-M-NOM big bed-M-DEF
‘それは大きなベッドです。’ (特に大きいベッド)
- (136) *sekka-n-a* *gilli ars-in-do.*
that-F-NOM small bed-F-DEF
‘それは小さなベッドです。’ (特に小さいベッド)

3.2 人称代名詞 (Personal Pronouns)

3.2.1 基本形 (Basic form)

人称代名詞は、1人称、2人称、3人称（単数は男女別）に分かれ、単数と複数が区別される。基本形は表3のようになる²⁴。

人称	単数 (SG)	複数 (PL)
1	ta:na	nu:na
2	ne:na	jinta
3	ija(m.) iza/izo(f.)	inta

表 3: 基本形

3.2.2 主格 (Nominative)

主格は、基本形の語末母音を /-i/ にすることで作られる。主格形は次の表 4 のようになる。

人称	単数 (SG)	複数 (PL)
1	ta:n-i	nu:n-i
2	ne:n-i	jint-i
3	ij-i(m.) iz-i(f.)	int-i

表 4: 主格

3.2.3 対格 (Accusative)

対格は、基本形に /-na/ をつけることで作られる。なお、名詞の対格標示 /-i/ に関連して、人称代名詞でも /-i/ (たとえば /ta:n-i/ 「私を」) 形が許容される。ただし、主格と同形のため多義的になり、区別ができなくなる。 /-na/ および /-i/ 両形の機能上の違いについては、現時点では不明である。主格と対格が現れる例をいくつか挙げる。

人称	単数 (SG)	複数 (PL)
1	ta:na-na/ta:n-i	nu:na-na/nu:n-i
2	ne:na-na/ne:n-i	jinta-na/jint-i
3	ija-na/ij-i(m.) iza-na/iz-i(f.)	inta-na/int-i

表 5: 対格

- (137) ij-i ta:na-na bukk-ide.
3SG.M-NOM 1SG-ACC hit-3SG.M.PF
‘彼は私を叩いた。’
- (138) ij-i ne:na-na bukk-ide.
3SG.M-NOM 2SG-ACC hit-3SG.M.PF
‘彼はあなたを叩いた。’
- (139) ij-i nu:na-na bukk-ide.
3SG.M-NOM 1PL-ACC hit-3SG.M.PF
‘彼は私たちを叩いた。’
- (140) ta:n-i ija-na bukk-ade.
1SG-NOM 3SG.M-ACC hit-1SG.PF
‘私は彼を叩いた。’
- (141) ne:n-i iza-na bukk-ade.
2SG-NOM 3SG.F-ACC hit-2SG.PF
‘あなたは彼女を叩いた。’
- (142) ij-i jinta-na bukk-ide.
3SG.M-NOM 2PL-ACC hit-3SG.M.PF
‘彼はあなたがたを叩いた。’
- (143) ne:n-i inta-na bukk-ade.
2SG-NOM 3PL-ACC hit-2SG.PF
‘あなたは彼らを叩いた。’

3.2.4 所有格 (Possessive)

所有格は、次の表 6 に示す形を取る。tabの方が標準形である²⁵。

また、譲渡不可能なものを特別な形態で区別することはない。

tab/ta lagge	「私の友人 ('my friend')」
neb/ne a:φ	「あなたの目 ('your eye')」
ijab/i kuj	「彼の手 ('his hand')」
izab/iz si:nts	「彼女の鼻 ('her nose')」

人称	単数 (SG)	複数 (PL)
1	tab/ta	nub/nu
2	neb/ne	jintab/jint
3	ijab/i(m.) izab/iz(f.)	intab/int

表 6: 所有格

人称代名詞の所有格によって修飾される名詞は通常定で現れる。ただし、(146)、(147)の疑問文とその答えのように、聞き手が知らないような状況では、名詞に定をつけない形も現れる。

tab/ta lagga-di 「私の友人 ('my friend')」
nub/nu ifa-di 「我々の兄弟 ('our brother')」

(144) i lagga-ad-i/*lagge gabi lukk-ine.
3SG.M.POSS friend-DEF-NOM market go-3SG.M.PF
‘彼の友人はマーケットに行った。’

(145) i kana-ad-i/*kan-i baw-i edd-ide.
3SG.M.POSS dog-DEF-NOM cat-ACC catch-3SG.M.PF
‘彼の犬は猫を捕まえた。’

(146) ij-i ne lagga-a?
3SG.M-NOM 2SG.POSS friend-INTRO
‘彼はあなたの友人ですか?’

(147) a: ta lagge.
yes 1SG.POSS friend
‘はい、私の友人です。’

(148) ij-i ne lagga-ad-a?
3SG.M-NOM 2SG.POSS friend-DEF-INTRO
‘彼はあなたの友人ですか?’

(149) a: ta lagga-ad-a.
yes 1SG.POSS friend-DEF-INTRO²⁶
‘ええ、私の友人です。’

3.2.5 所有物 (Possession)

所有物を表す場合は、表 7 のような形を取る。以下に例文を示す。

人称	単数 (SG)	複数 (PL)
1	taj/taje	nuj/nuje
2	nej/neje	jintaj/jintaje
3	ijaj/ijaje(m.) izaj/izaje(f.)	intaj/intaje

表 7: 所有物

(150) fia: u:φ-a taj/taje.
this injera mine
‘このインジェラは私のものだ。’

(151) fia: matsa:φ-a-ad-i ijaj/ijaje.
this book-M-DEF-NOM his
‘この本は彼のものだ。’

3.2.6 再帰形 (Reflexive)

3 人称の場合、同一文中の人称代名詞の主格と所有格が同一人物かそうでないかを区別するための方法がある。/pe-/という再帰形を使うと同一人物を指し、それに対して、通常の所有格形を使うと主格と異なる人物を指すことができる ((153) と (154)、(155) と (156))。

(152) ij-i pe-bab-abo matsa:φ-ad-ani emm-ine.
3SG.M-NOM REF-father-DAT book-DEF-ACC give-3SG.M.PF
‘彼は自分のお父さんにその本を与えた。’

(153) φik'r-i matsa:φ-ad-ani pe-bab-abo emm-ine.
Fique-NOM book-DEF-ACC REF-father-DAT give-3SG.M.PF
‘フィクレはその本を自分 (= Fique) のお父さんに与えた。’

(154) φik'r-i matsa:φ-ad-ani i bab-abo emm-ine.
Fique-NOM book-DEF-ACC 3SG.M.POSS father-DAT give-3SG.M.PF
‘フィクレはその本を彼 (≠ Fique) のお父さんに与えた。’

(155) meskerem-a matsa:φ-ad-ani pe-b ab-abo emm-ine.
 Meskerem-NOM book-DEF-ACC REF-father-DAT give-3SG.F.PF
 ‘メスケラムはその本を自分 (= Meskerem) のお父さんに与えた。’

(156) meskerem-a matsa:φ-ad-ani iz bab-abo emm-ine.
 Meskerem-NOM book-DEF-ACC 3SG.F.POSS father-DAT give-3SG.F.PF
 ‘メスケラムはその本を彼女 (≠ Meskerem) のお父さんに与えた。’

複数でも (157) と (158) のように、一応形態上区別は可能であるが、特殊な状況なのであまり使われない。

(157) int-i pe-bab-ants-abo mi:z-ants-ani emm-ine.
 3PL-NOM REF-father-PL-DAT cow-PL-ACC give-3PL.PF
 ‘彼らは自分たち (= they) のお父さんたちに雌牛を与えた。’

(158) inti int bab-ants-abo mi:zants-ani emm-ine.
 3PL-NOM 3PL.POSS father-PL-DAT cow-PL-ACC give-3PL.PF
 ‘彼らは彼ら (≠ they) のお父さんたちに雌牛を与えた。’

一方、1人称、2人称では /pe-/ は決して使われない。

(159) ta:n-i ta/*pe- kan-a-ad-i bukk-ine.
 1SG-NOM 1SG.POSS dog-M-DEF-ACC hit-1SG.PF
 ‘私は私の犬をたたいた。’

(160) ne:ni ne/*pe- kan-a-ad-i bukk-ine.
 2SG-NOM 2SG.POSS dog-M-DEF-ACC hit-2SG.PF
 ‘あなたはあなたの犬をたたいた。’

ところで「自分自身」を表すために、k’ommabo「自身」という単語がある。これは k’omma「髪(‘hair’)」に与格 /-abo/ がつくことで作られている²⁷。

ta k’ommabo 「私自身(‘myself’)」
 na k’ommabo 「あなた自身(‘yourself’)」

しかし、一般に「自分の体を洗う」という表現をする場合には、(161) のように、動詞の接辞で再帰形 (-int-) を使うのが最も一般的な方法である。あるいは、(162) のように、galla「体(‘body’)」という単語を使う。かりに(163) のように、ta k’ommabo「私自身(‘myself’)」を使うとすると、その部分をあえて強調したかなり余剰的な表現になる。また、(164) のように、動詞を再帰形にしなかった場合は、「皿や牛ではなく、自分の体を洗っ

た」という対照的な意味を含意することになる。したがって、k'ommabo は一つの単語に過ぎず、バスケット語の中で再帰代名詞として特別な文法機能を果たしているとはいえない²⁸。

(161) ta:n-i me:tʃ'-int-ine.
1SG-NOM wash-REF-1SG.PF
'私は自分の体を洗った。'

(162) ta:n-i ta galla me:tʃ'-ine.
1SG-NOM 1SG.POSS body wash-1SG.PF
'私は私の体を洗った。'

(163) ta:n-i ta k'ommabo me:tʃ'-int-ine.
1SG-NOM 1SG.POSS myself wash-REF-1SG.PF
'私は私自身を洗った。'

(164) ta:n-i ta k'ommabo me:tʃ'-ine.
1SG-NOM 1SG.POSS myself wash-1SG.PF
'私は私自身の体を洗った。'

3.3 疑問詞 (Interrogatives)

疑問 (代名) 詞²⁹の文中での位置は、一般に語頭の位置が最も自然である。

3.3.1 o:no 「誰 ('who')」

格変化とそれに対応する例文を示す³⁰。なお、2人称主格形が/ne:ni/ではなく/ne/という形態で出てくる。短縮形と思われるが、今のところ詳細は不明である。もっとも動詞人称語尾で人称がわかるので、独立人称代名詞の方は省略されやすい。

主格	o:no
対格	o:na-na/o:nja
所有格	o:

表 8: 誰

- (165) o:mo naʔ-a bukk-e?
 who-NOM boy-ACC hit-3SG.M.PF
 ‘誰が少年をなぐった?’
- (166) o:nana/o:nja ne koj-ara?
 who-ACC 2SG.-NOM want-2SG.IMPF
 ‘あなたは誰が欲しい?’
- (167) o: kana fia-adi?
 who-POSS dog this-NOM
 ‘これは誰の犬ですか?’

3.3.2 abz/a 「何(‘what’)」

/abz/が基本形である。短縮形として/a/がある。

- (168) abz na:sa ekk-e?
 what-ACC man-NOM take-3SG.M.PF
 ‘男は何を取った?’
- (169) a ne otts-i?
 what-ACC 2SG-NOM do-2SG.PF
 ‘おまえは何をした?’

3.3.3 wojdi/woj 「どこ(‘where’)」

- (170) wojdi/woj (ne) lukk-ara?
 where (2SG-NOM) go-2SG.IMPF
 ‘あなたはどこに行く?’

3.3.4 wonni/wo 「どっち(‘which’)」

男性形が/wo/、女性形が/wonni/になる。

- (171) wo gents-a (ne) koj-ara?
 which-M ox-DEF-ACC (2SG-NOM) want-2SG.IMPF
 ‘あなたはどっちの雄牛が欲しい?’
- (172) wonni mi:z-in (ne) koj-ara?
 which-F cow-DEF-ACC (2SG-NOM) want-2SG.IMPF
 ‘あなたはどっちの雌牛が欲しい?’

3.3.5 anti/ant 「いつ ('when')」

- (173) anti/ant (ne) jej-i?
when (2SG-NOM) come-2SG.PF
‘おまえはいつ来た?’

3.3.6 wozar 「どう ('how')」

- (174) wozar ij-i fajk'-e?
how 3SG.M-NOM die-3SG.M.PF
‘彼は どう やって 死んだの?’

3.3.7 abzab/abab/aba 「なぜ ('why')」

- (175) abzab/abab/*aba³¹ (ne) jej-i?
why (2SG-NOM) come-2SG.PF
‘おまえはなぜ来た?’

- (176) ne koj-ara aba?
2SG-NOM want-2SG.IMP why
‘なぜおまえは欲しがる?’

3.3.8 a:φina 「いくら ('how much')」

価格をたずねる時の語順のみ、疑問詞が後の位置の方が自然になる。

- (177) wagin a:φina?
price how much
‘価格はいくら?’

4 数詞 (Numerals)

4.1 基数詞と序数詞

4.1.1 基数詞 (Cardinals)

基数詞の体系は以下のとおりである³²。10進法である。

1	ϕettan	11	taβbo ϕettan	21	lamtam ϕettan	1000	bonda
2	nam?i	12	taβbo nam?i	30	fiajdzi taβba		
3	fiajdzi	13	taβbo fiajdzi	40	ojddi taβba		
4	ojddi	14	taβbo ojddi	50	ifin taβba		
5	ifin	15	taβbo ifin	60	lehi taβba		
6	lehi	16	taβbo lehi	70	tabzi taβba		
7	tabza	17	taβbo tabza	80	lamakaj taβba		
8	lamakaj	18	taβbo lamakaj	90	sa:kali taβba		
9	sa:kali	19	taβbo sa:kali	100	ts'e:ta		
10	taβba	20	lamtam	200	nam?i ts'e:ta		

4.1.2 序数詞 (Ordinals)

序数詞は、基数詞の語末母音を /-i/ にして、 /-tsa/ をつけることでほぼ規則的に作り出される。

ϕetti-tts(a)	「1 番目 ('first')」	lehi-tts(a)	「6 番目 ('sixth')」
nam?i-tts(a)	「2 番目 ('second')」	tabzi-tts(a)	「7 番目 ('seventh')」
fiajdzi-tts(a)	「3 番目 ('third')」	lamakaj-tts(a)	「8 番目 ('eighth')」
ojddi-tts(a)	「4 番目 ('fourth')」	sa:kali-tts(a)	「9 番目 ('ninth')」
ifini-tts(a)	「5 番目 ('fifth')」	taβbi-tts(a)	「10 番目 ('tenth')」

4.2 時間の言い方

エチオピアでは、日の出 (朝 6 時) から時間が始まり、ヨーロッパ時間の昼の 12 時は 6 時になる。バスケット語本来の単語が使われるのは bagga 「半分」、attir 「前」のみで、残りはアムハラ語からの借用語を使っている。sa?at 「時」、dek'ik'a 「分」、rube 「15 分」、bagga 「30 分」、attir 「前」を下記の例のように入れて使う。なお、/ki/ は「と」の意味で、/-abo/ は与格標示である。

lehi saʔat	「6 時」
lehi saʔat ki ifin dek'ik'a	「6 時 5 分」
lehi saʔat ki taṣṣ dek'ik'a	「6 時 10 分」
lehi saʔat ki ru:be/ru:b dek'ik'a	「6 時 15 分」
lehi saʔat ki lamtam dek'ik'a	「6 時 20 分」
lehi saʔat ki bagga	「6 時半」
tabzi saʔat-abo lamtam ifin dek'ik'i attir	「7 時 25 分前」
tabzi saʔat-abo lamtam dek'ik'i attir	「7 時 20 分前」
tabzi saʔat-abo ru:b attir	「7 時 15 分前」
tabzi saʔat-abo taṣṣ dek'ik'i attir	「7 時 10 分前」
tabzi saʔat-abo ifin dek'ik'i attir	「7 時 5 分前」

(178) fiat saʔat a:ḥina?

now time what

‘今何時?’

(179) fiat lamakaj saʔat ki ru:be.

now eight o'clock and fifteen

‘今 8 時 15 分 (エチオピア時間)’

もっともバスケット語本来の時間区分は、次のようなものである。

時間区分

gelaḥa	「夜明け前 (5 時～6 時)」
ge:ʃ	「朝」
galas	「昼」
omats	「夕方 (3 時～6 時)」
k'am	「夜 (6 時～)」

その他

meh kes saʔat	「家畜が家畜小屋から出る時間 (8 時～10 時)」
misi saʔat	「昼ご飯の時間」

略号 (Abbreviations)

1S	「1 人称单数 ('first person singular')」
1PL	「1 人称複数 ('first person plural')」
2S	「2 人称单数 ('second person singular')」
2PL	「2 人称複数 ('second person plural')」
3SG.M	「3 人称男性单数 ('third person masculine singular')」
3SG.F	「3 人称女性单数 ('third person feminine singular')」
3PL	「3 人称複数 ('third person plural')」
M/(m.)	「男性 ('masculine')」
F/(f.)	「女性 ('feminine')」
SG/(sg.)	「单数 ('singular')」
PL/(pl.)	「複数 ('plural')」
DEF	「定 ('definite')」
INDEF	「不定 ('indefinite')」
NOM	「主格 ('nominative')」
ACC	「对格 ('accusative')」
DAT	「与格 ('dative')」
GEN	「属格 ('genitive')」
ABL	「夺格 ('ablative')」
INSTR	「具格 ('instrumental')」
LOC	「场所格 ('locative')」
POSS	「所有 ('possessive')」
INTRO	「疑問形 ('interrogative marker')」
PASS	「受身 ('passive')」
REF	「再帰 ('reflexive')」
PF	「完結相 ('perfective')」
IMPF	「非完結相 ('imperfective')」
INF	「不定形 ('infinitive')」

注

- ¹Fleming (1976) の分類による。
- ²形態論の中の形容詞、動詞、および統語論は、統編で取り上げることにする。
- ³バルタ村はさらに jarba, gimbar, doho kootso の 3 つに分かれており、インフォーマントの出身は gimbar である。現在 gimbar の人口は約 150 人ぐらいで、住民は全員バスケト人である。村の平均的な家族構成は 4 人前後で、主な職業はコーヒー、コロリマという香辛料、ソルガム、とうもろこし、麦などの農作物を作る農業従事者と野菜の行商である。
- ⁴バスケト語の社会言語学的調査については、別の機会に論じるつもりである。
- ⁵本稿で論じる文法項目の中では、名詞の格、人称代名詞、疑問詞、数詞について言及されている。
- ⁶悪天候のため、当初予定していたバスケト地域に入れず、その手前約 20 キロのブルキ (bulki) で移動の待ち時間中に、3 人のバスケト語話者から聞き取り調査をしたものとされている。
- ⁷乾 (2002) 以降の調査結果から、子音に関して一部音素表記を修正している。
- ⁸buná「コーヒー ('coffee)」は借用語である。
- ⁹無生名詞のこのような性の区別は Baye Y.(1994:422) によれば、同じオメト諸語に属するゼルグラ (Zergula) 語にもみられるが、その場合は動詞の人称標示、定や指示代名詞の側で区別するようである。
- ¹⁰女性だけを表す単語として、mac「女 ('woman)」がある。ただし「大きな女性」の意味で、*matf'-a-ada という形は使えない。
- ¹¹Alemayehu A.(2002:6) の /-ansa/ は /-antsa/ の誤りである。また、複数の一致現象は、指示代名詞に限ったことではなく、形容詞などにもみられる。
- ¹²男性だけの集団でも男女が混ざった集団でも女性だけの集団でも表すことができる。
- ¹³女性の集団しか表せない。
- ¹⁴bun-antsa ならば「花 ('flower)」の複数になる。
- ¹⁵Akdilu Y.(2002:9) によれば、同じ西オメト諸語に属するチャラ語 (Chara) にも同様の現象がある。なお、Alemayehu A.(2002:9) では、男性名詞の定 /-adi/、女性名詞の定 /-indo/ とそれぞれ記述しているが、性と定と格の形態素の切れ目が捉えられていない不完全な記述である。
- ¹⁶この場合、形容詞文は、名詞文同様、主格標示が選ばれる。
- ¹⁷Cerulli(1938:107-108) には、名詞の格標示に関して、いくつか (対格 /-n/、与格 /-s/、奪格 /-fe/ など) 挙げられているが、本稿の記述と全く異なっている。また、Alemayehu A.(2002) では、/-i/ を名詞標示 (nominal marker) として捉えているが、主格や対格という形で記述されていない。さらに、後置詞という項目にいくつか (/ -bara/ ('at', 'with'), /-galapo/ ('from'), /-giddi/ ('in') /-bo/ ('to', 'for')) 挙げられている。しかし断片的に列挙されているだけで、形態素の切れ目が不完全で、格標示を特定できていない。
- ¹⁸エチオピアで売られているミネラルウォーターの商標である。
- ¹⁹現実にはあまり使わない。むしろアムハラ語からの借用語にバスケト語の呼格語尾だけをつける形が用いられる。immamm-o!「お母さん！」
- ²⁰この場合は、/-e/ のままで呼格になる。
- ²¹単数・複数関係なく、集団のみを表す。
- ²²Alemayehu A.(2002:4) では、指示代名詞の単数形を 3 人称代名詞と勘違いして記述している。
- ²³コピュラ (wode) はあっても可能だが、むしろない方が自然である。
- ²⁴Cerulli (1938:101) では、3 人称男性および複数の形を /asa/ 「人、男」という単語と取り違えている。また、Alemayehu A.(2002:4) では、主格形 /-i/ が代表形として挙げられているが、基本形は /-a/ および /-o/ である。また、2 人称複数と 3 人称複数とは同形ではない。
- ²⁵Alemayehu A.(2002:5) では、tab などの /-b/ が出る形を記述していない。
- ²⁶定の場合は、答えもなぜか疑問形 /-a/ で出てくる。
- ²⁷Akdilu Y.(2002:9) にも、ナイ語 (Nayi) に関して同様の指摘がある。ただしナイ語の場合、「髪」ではなく「頭」に与格がつく。

²⁸ Alemayehu A.(2002:4) は、西洋文法に引きずられて、何の検証もすることなく、無批判的に再帰代名詞という項目を立てている。

²⁹ Cerulli (1938:106-107) には、いくつかの疑問詞について言及されているが、本稿の記述と一致しないものが多い。一方、Alemayehu A.(2002:5) に挙げられている疑問詞は、異形態についての言及が不十分であったり、若干語形の異なるものも含まれたりするが、基本的に本稿の記述と一致する。

³⁰ Alemayehu A.(2002:5) では、格変化を記述していない。Cerulli (1938:106) の記述も不正確である。

³¹ この文では aba は使えない。理由は今のところ不明である。

³² Cerulli (1938:108-111) には比較的詳細な数詞に関する記述がある。ただし、いくつかの語形に関して本稿の記述と若干異なる音形が提示されている。

【参考文献】

- Aklilu Yilma 2002 'Sociolinguistic Survey Report on the Chara Language of Ethiopia,' *SIL Electronic Survey Reports* 2002-032. Dallas: Summer Institute of Linguistics.
<http://www.sil.org/silesr/2002/032/SILESR2002-032.pdf>
- Alemayehu Abebe 2002 'Sociolinguistic Survey Report of the Mesketo language of Ethiopia,' *SIL Electronic Survey Reports* 2002-067. Dallas: Summer Institute of Linguistics.
<http://www.sil.org/silesr/2002/067/SILESR2002-067.pdf>
- Baye Yiman 1994 'Some Aspects of Zergulla Morphology,' *Proceedings of the Eleventh International Conference of Ethiopian Studies*. Addis Ababa: Institute of Ethiopian Studies, Addis Ababa University, 419-428.
- Bender, M.L., J.D.Bowen, R.L.Cooper and C.A.Ferguson (eds.) 1976 *Language in Ethiopia*. London: Oxford University Press.
- Cerulli, Enrico 1938 *Studi Etiopici III, Il linguaggio dei Giangero ed alcune lingue Sidama dell'Omo (Basketo, Ciara, Zaissè)*. Roma: Istituto per l'Oriente.
- Fleming, H.C. and M.L.Bender 1976 'Cushitic and Omotic,' In: M.L.Bender, J.D.Bowen, R.L.Cooper and C.A.Ferguson (eds.), 34-53.
- Grimes, B.F. (ed.) 2000 *Ethnologue: Languages of the World. 14th edition*. Dallas: Summer Institute Linguistics.
- 乾 秀行 2002 「バスケット語の語彙」『一般言語学論叢』4・5 合併号, 筑波一般言語学研究会, 11-33.